



FEEL J株式会社

社長

加藤 千晶 氏

漆器の販売やワークショップなど、漆に関する事業を展開している。

「若い世代との共同開発で製品化」

漆はウルシという木から採れる樹液のことですが、その採取を「漆掻き」と言います。漆掻き後の伐採した木はこれまで活用されていませんでしたが、その材木で製品を生み出せないかと考え、東商の産学公連携相談窓口事業を利用しながら「ウルシの木の活用プロジェクト」を開始しました。

拓殖大学とはウルシの木のデータを集めることと、製品化のアイデアを具体的に検討することを同時に進行しました。さらに、展示会や植樹活動の参加など、学生たちに様々な形でこのプロジェクトに携わってもらいました。若い世代が参加すること自体がプラスに働いたと思います。他の企業にもこの事業の利用をおすすめしたいです。



拓殖大学 工学部デザイン学科

准教授 技術士（建設部門）

永見 豊 氏

地域連携やゼミ教育といった課題解決型の学習に力を入れている。

「企画段階からの連携で学生のアイデア活かしやすく」

この相談を聞いた時「学生のアイデアを活かせるのでは」と思い、引き受けることにしました。ウルシの木の特性を探るうちにウルシの木には抗菌作用があることが分かり、スマホスタンドや電車の吊り革などのアイデアが出され、実際に製作もしました。「年輪」や「掻き傷」をデザインに取り入れた時計も学生が考案・製作し、これらはクラウドファンディングの返礼品となりました。自分の作った製品が人の手に渡るとするのは、学生にとっても良い経験だったと思います。

本件のように企画段階で相談があると、学生も参加しやすいのではと感じました。加工や試験などを重ねていくうちに判明していくことも多く、企業・大学双方にとって貴重な発見になったと思います。